

うない奨励賞最優秀賞受賞者

理工学研究科 海洋自然科学専攻 (教育学部卒業)

西嶋 櫻さん



Q1.取り組んでいる研究についての紹介

私が研究の対象としているのは、オキナワシリケンイモリです。

イモリと聞いて皆さんが思い浮かぶイメージはなんですか？「壁にくっついてるやつ！」と思った方は残念、それはヤモリです。一説に、井戸を守るからという理由でイモリと名付けられたと言われているように、イモリはカエルなどと同じ、両生類の仲間。オキナワシリケンイモリは繁殖を水辺で行い、繁殖期以外は陸上で過ごすというライフサイクルを持つ生物です。多くの両生類は繁殖期に水辺に集合するため、様々な研究が行われていますが、非繁殖期になると陸上に散らばり見つけづらいため、基礎的な生態があまり知られていません。そこで卒論では、オキナワシリケンイモリを対象に移動特性の調査を始めました。

移動の追跡は、蛍光トラッキング法を使って行っています。これは、イモリを見つけて塗料を塗布し、イモリが歩いた後に残る足跡のような軌跡をUVライトを使って追跡する方法です。毎晩イモリを追って山を歩くので骨が折れますが、面白い移動特性の発見もあり、とてもやりがいのある研究で、今も継続して調査を行っています。

修論では、長期的な移動に着目し、移動によって生じる遺伝子流動を、遺伝学的手法を用いて調査することも進めています。また、学部の中には海外の雑誌に短報を投稿させて頂きました。内容は、外来種のウシガエルがアマミタカチホヘビとクロイワトカゲモドキを捕食していたという報告で、国内ではウシガエルによる在来爬虫類と天然記念物の生物の捕食が確認された、初の報告となりました。

Q2.研究の道（大学院）に進んだきっかけ

元々教育学部の理科専攻だった私は、教員になるか、研究を継続するか、3年の後期まで迷っていました。自分が大好きな生物や研究を突き詰める研究活動には、主体性や独創性が必要となります。これには、目の前に広がる大海原を、自分が操縦する船でこぎ出すような不安もあり、そこに進むための十分な勇気が、当時は持てないでいたのです。

しかし、迷っていた時期、年次指導の先生と話す機会がありました。「卒業後どうするの？」との質問に「(興味もあるし安定でもあるし)教員になろうと思います。」と答えたところ、「教員本当にやりたいの？研究続ける方が合っているんじゃない？」と言われてしまいました。自分でも薄々と気づいてはいましたが、他人からもそう見られているとなると、迷いは無くなりました。

今はまだ、研究の道に進んだばかりで、日々壁に直面する研究生生活ですが、今日よりも明日、今年よりも来年、そして未来の自分が成長できるように、将来の目標に向かって努力しています。教育学部に入学したときも、今も、ぶれない将来の夢は、自然科学の教育普及に携わることです。大学院では専門知識をさらに身につけ、社会教育施設として生物を展示・紹介している水族館に就職し、研究を継続しつつ、この素晴らしい自然環境を広く社会に伝え、保全に繋げていける立場になりたいと考えています。

Q3.大学院進学を検討している後輩に対して、「これだけはしておいた方がいい」ということ

大学院生活は、2年とはいえ、長いと思う割にはすぐに時間が過ぎ去り、その間やらなければならないことは数多あります。学部の頃とは打って変わって、主体性や成果が求められる大学院での研究生生活を充実させるためには、自分が好きなこと、やりたいことを定め、突き進む姿勢が重要です。そのためには、学部生のうちに、自己分析を行い、目標を明らかにしておく必要があります。周りの友人や、信頼できる先生に相談するのも良いでしょう。そして、その目標の途中で大学院という選択肢があれば、ぜひ進学することをお勧めします。

Q4.後輩におすすめの図書・雑誌

お勧めしたい図書はたくさんあるのですが、ここでは、大学院進学を考える学生向けに、本の選び方について紹介したいと思います。

やりたいことがわからないという場合、

- ① 面白いと感じた講義のシラバスに記載されている本を選ぶ、
- ② 自分が興味のある研究分野についての本を探す、
- ③ 興味がある研究室の教授が執筆している本を読む、

ということを参考にすれば、自分の興味・関心の所在を明らかにすることができるのではないのでしょうか。図書館にはたくさん本がありますし、本が無ければリクエストも可能なので、ぜひ図書館を活用してみてください。

